



レシピ #001

R3.5.19

望ましい人間関係を基盤とした授業づくり



〔安達地区〕

中学年 外国語活動の授業より



授業のワンシーン



ジェスチャークイズをしています。カードに描かれている表情（気持ち）をみんなで当てる活動です。クイズが進むにつれて活動は盛り上がりを増し、みんな楽しそうです。

“How are you?” → (ジェスチャー) → “I am happy.” → “That's right!”

子どもたちが発表を終えて次の活動に移ろうとした時、T君がこう言いました。

「先生、〇〇ちゃんまだやってないよ。」

この言葉にはっとした先生も、「そうだったね。じゃあやろうね。」と促します。〇〇ちゃんも無事発表を終え、全員大満足して次の活動に進みました。



ここがオススメ！



学級に何でも言い合える雰囲気があり、子どもたちは安心して自分の思いや考えを伝え合っていました。先生に伝えてくれたT君は、「〇〇ちゃんが発表できなくてかわいそう」と思ったのでしょうか。自分のことばかりではなく、学級の友達のことにも心配し行動できる姿に心打たれました。

その姿は、学習指導要領前文にある「あらゆる他者を価値ある存在として尊重」「多様な人々と協働」「持続可能な社会の創り手」などとも大いに関連し、さらには「だれ一人取り残さない」というSDGsの理念にもつながるものです。

当然子どもたちはそんなことは意識していないでしょう。だからこそ我々教師が子どもの言動を積極的に価値付けし、認め、伝えてあげることが大切です。例えば「友達のこと心配してくれてやさしいね。先生うれしいわ。」でもいいし、“T kun, you are great! Thank you.”と本時の内容を生かして英語で伝えるのも素敵ですね。

T君も、I'm happy! と本時の内容を心から実感できたのではないのでしょうか。



【参考資料 I】「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向け P.14～15